

ふりがな 氏名	かとう たつひろ	都道府県	東京都			
	加藤 超大					
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> ・(公社)日本環境教育フォーラム国際事業部 コーディネーター ・青年海外協力隊 環境教育OV会 会長 					
私のESD活動	「自然環境保全」と「地域住民の貧困解消」の両立による持続可能な社会づくり					
関心・活動のSDGs						

活動の概要

【青年海外協力隊(職種:環境教育 派遣国:ヨルダン)2012年6月~2014年6月】

大学卒業後に、青年海外協力隊として中東・ヨルダンに環境教育ボランティアとして2年間活動しました。ヨルダンでは、教育局に配属され、小中学校で環境問題(ごみの削減や森林保全など)の出前授業を行った他、エコクラブ教員に対して環境教育の研修を開催しました。また、帰国後は2年間の活動経験を日本社会に還元すべく、ボランティア有志で「環境教育OV会」を立ち上げ、環境教育や国際協力に興味のある方を対象に活動体験談などを報告するイベントを定期的で開催しています。

【日本環境教育フォーラム 2014年7月~現在】

現在は日本環境教育フォーラムに就職し、カンボジアやバングラデシュ、インドネシアなど、主にアジアの途上国をフィールドに生物多様性保全の教材開発、自然の恵みを活かした製品(はちみつ、ヤシ砂糖など)の生産・販売支援、エコツーリズム開発を行なっています。これらの活動を通して「自然環境保全」と「地域住民の貧困解消」の両立による、持続可能な社会づくりを目指しています。

・「日本環境教育フォーラム」 <http://www.jeef.or.jp>

・「環境教育OV会」 <https://seejocv.weebly.com>

今後の活動の展望と周囲や社会への還元

私には夢があります。それは、日本型の環境教育のひとつでもある自然学校を、開発途上地域に広めることです。まずは寄付金や助成金を集めて、バングラデシュ初の自然学校を3年以内に設立することを目指しています。

自然学校を設置することで、地域に新たな産業や雇用が生まれます。それにより、違法伐採や密漁などが減り、自然環境の保全につながります。また、これまで都市部に流出していた若者は地域に残ることもでき、地域の伝統的な知恵や文化も守られます。このように自然学校は、持続可能な地域づくりの拠点として自然・社会・文化資本を守ることができます。

ただし、この夢を実現するためには私一人の力では決してできません。そのためにも、多様な経験やノウハウを持つ第5回や歴代ESDユース・コンファレンス参加者とのネットワークを活かしながら進めていきたいと考えています。